

# ⑥ パンについての世論 調査のサムプリング

木 村 等

パンについての主婦の意見を知りたいというのがこの調査の目的である。この調査を行うことが定つてから結果を出すまでに約2日の時間しかなかつた。そこで調査は東京都の區部で行うことにし、又動かし得る調査員の数から標本は200人とした。

意見というものは生活環境によつて異つていゝるであらうと思われる。

例えば商家と工場労働者の家では相当な違いがあるであらう。

数理統計学の教える所によれば意見の散らばり方がまとまつていて変動の小さいいくつかの群にわけて、そこから各群の人口に比例して標本をとつた方が、何の操作も行わずに標本をとるよりも精度がよい。

(この群をわれわれは層とよんでゐる。)

そこでわれわれの持っている各区の産業別の人口表を用いて工場従業者の多い所、商店の従業者の相当にある所という風にわけける。

例えば第Ⅴ層では、

	中 央 区	台 東 区	千 代 田 区
建 設 工 業	3 %	3 %	4 %
製 造 工 業	12 %	12 %	10 %
商 業	11 %	10 %	10 %
運 輸 通 信 業	3 %	2 %	2 %

のようになっている。

第 III 層では、

	品川区	荒川区	江東区	墨田区
建設工業	3%	3%	4%	3%
製造工業	17%	19%	20%	18%
商業	5%	6%	5%	5%
運輸通信業	3%	3%	4%	2%

を示している。

われわれはなお、大工場の従業員か、小工場の従業員か等によつても  
 区別をしたいのであるが、これに関しては資料を持っていないので上の  
 所で満足しておくことにする。

結局つくつた層は、

層	區名	人口
I	世田谷、目黒、板橋、北、大田	1,219,505
II	港、文京、豊島、新宿、渋谷 中野、杉並	1,197,735
III	品川、荒川、江東、墨田	634,808
IV	足立、葛飾、練馬、江戸川	700,397
V	中央、台東、千代田	424,803

上の各層に人口に比例し全体で 200 になるように標本を割り当てると、

I	59
II	57
III	30
IV	34
V	20

となる。

1人が、調査出来るのは10人位という標準で地点を各層から、  
I. 6 ; II. 6 ; III. 3 ; IV. 3 ; V. 2 ; とることにした。

そこで地点——ここでは町——を指定しなければならない。

例えば、第I層では5つの区の町の数は全部で187ある。ここから6つの町をとるのであるが、 $\frac{187}{6} = 31.166\dots$ となる。そこで31までの数を乱数表からえらぶ。

この時は10であつたから、まづ世田谷の町を資料にあつた順序、池尻、三宿、太子堂、----- という風に数えていって10番目の町世田谷をよつて標本地点とする。

次に、世田谷の次の経堂からかかえて31番目の町戎城町をよつて標本地点とする。

又次に同様にして数えて行き世田谷が終れば目黒区と数えていって、31番目毎の町をよつて標本地点とするのである。

この層の標本地点は次の通り

世田谷区	世田谷町	10
〃	戎城町	10
目黒区	倉町	10
北区	稲付町	10
大田区	下丸子町	10
〃	北千束町	9

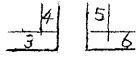
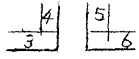
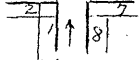
この層のサンプル数は59人であるから、10人づつの町と一つだけ9人調査する町が出来る。これはランダムにきめる。

これには町の数は6だから6までの数を乱数表からえらび、それから6であつたので、6番目の北千束を9人調査する地点とした。

普通の調査では指定された、住所と氏名によつてサンプルである人を訪問するのであるが、われわれは前もつて標本を指定する時間があつたので、実際に調査する人(サンプル)をきめるのは、指定された町に

行き、その町であるとわかつた所から始めて、五軒目毎に訪問する。

不在のときにはとなりの家を調査する。これは外出している主婦も家にいる主婦も意見に関して差がないと考えてである。

例えば四つ角に来たとき、 の様に番号をつけておき  
8までの数を乱数表からえ  らぶ。この時出た数の方向  
に向つて進む。というよう  にする。

計画をたて始めてから調査員を送り出すまでに2時間を要したのみであつた。